

特集

『町長・議長対談』



4月5日、熊田義信町長と笹木正文町議会議員が、任期4年の折り返しを迎え、これまでのまちづくりや議会運営などについて語り合いました。

「新十津川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、人口増の結果が出ていることをどうとらえていますか。

熊田町長 私が町長に就任した当時は総合戦略のスタート年であり、総合戦略の核に「子育て支援と教育」を掲げました。子どもたちが元気で輝く地域、

子どもたちの声が聞ける町が商工業への活気にもつながっていくとの確信を持ち、総合戦略を策定し、まちづくりを進めてきました。

昨年と比較し16人の人口増につながったのは大変うれしく思います。町民の皆さまが本町の取り組みなどを町外の方に伝えていただき、その方が本町に関心を持ち、住宅を構え、「ついで

のすみか」として選択してくれたのが大きいのではないかと考えています。

基幹産業の農業についても、スマート農業などをきっかけとして、後継者、新規就農者が夢や希望を描けるようになり、次の時代につながる取り組みを進めていくという機運が高まりつつあるように感じています。

議会も、行政と一緒にまちづくりに取り組んでいる中、この2年間を振り返ってみていかがですか。

笹木議長 1年目はくるま座ミーティングなど住民の皆さまとの対話を重視した中でご意見を伺ってきました。2年目は、コロナ禍により機会も場も失い、本場に不自由な一年でしたが、議会運営委員会提案の「夜間議会」を初めて開催し、好評をいただきました。また、議会のICT化、タブレットの導入を進めるためのガイドラインや災害時の議会対応についても、議会運営委員会でも策定中です。

町の産業では、スマート農業は規模の大小にかかわらず、新3K「格好いい、稼げる、感動する」を農業者の方が享受できるようにさまざまな工夫をして進めてほしいですし、議会としても基幹産業の振興に賛同します。

商工業では、現事業所の存続と起業



熊田義信・新十津川町長

した事業所への支援は、雇用の創出としてとらえ、行政とともに進めていきたいと考えています。

町の魅力を感じてもらおうようPRに力を入れているところは何ですか。

熊田町長 伝えるためには「簡単で、分かりやすく、理解してもらおう」のが大事だと考え、町民の皆さまへの「見える化」に努めてきました。

職員は行政のプロフェッショナルです。力を結集してさまざまな工夫を凝らしてもらい、それを私がトップセールスマンとして発信していきたいと考えています。私の名刺は、町の歴史や特産品、スマート農業や子育て支援などが写真入りで紹介されていますが、職員が作成してくれました。

新型コロナウイルス感染症拡大は、さまざまなかことが見直されるきっかけになりました。町政で進めるのが難しかったことはありますか。

熊田町長 人と人との交流ができないのは、高齢化社会の中では生きがいがなくなるように感じるとさえ聞きます。そのような中、社会福祉協議会や保健福祉課、介護施設ではタブレット等の利用に取り組んでおり、コロナ禍においては大変有効な手立てだと思えます。

今年度、町内全域に光回線が整備されます。高齢者がタブレットを使いこなしていくためにも、議員の皆さんも率先してタブレットを使い、その良さを浸透させていただきたいです。ICT利用をPRし、住みやすい町として先行できればと思います。

この先の2年間のまちづくりをどう進めていきますか。

熊田町長 新十津川駅跡地の公園や道路、住宅地の整備、線路撤去後の大型ほ場整備、橋本公有地の見直しと公営住宅の建て替えなど街並みの環境を整えて、町に住んでいる方に喜んでもらえる町、住み続けたいと思える町をつくりたいと考えています。

また、「スマート農業」と言えば新十津川」と言われるような町にしたいです。現在、防除用ドローンは町内の農業者4軒に1台の割合で導入されており、おそらく日本一ではないかと思えますし、定住促進事業は確かな成果を示しています。農業や商工業の取り組みが前進していることは大変うれしいですし、勢いや活気があり希望があらわれている町は住民にとっても楽しいはずです。

住んでいる者としては、停滞している町は寂しく、住み続けたいとは思えません。「展開していく町」をしっかり進めていきたいと考えています。



熊木正文・新十津川町議会議長

笹木議長 これからは新庁舎から行政サービスを発信していきますが、サービスの周知を徹底してほしいです。子育て支援、高齢者の交通手段・買い物への支援など、将来的な予算も計画的に考えていく必要があると思います。

観光事業では、国道275号線沿いに町のにぎわいの決め手になるような部分が見えず、住民からは、本町の起点で象徴でもある菊水、中央公園の整備活用を望む声があります。ぜひ、まちづくりの中で考えてほしいと思います。また、ジェンダー問題は、これからは議会も行政も女性が活躍できる方向を考えていくのが大事だと思います。議会も「なり手がいない議会」は喫緊の課題だと思っています。議会も行政も「女性に優しいまち」と言われるようになることを期待します。

熊田町長 議員には、議会議員の仕事を通して、その役割、議員の必要性、やりがいや後世に伝える責任があると思います。

議員の皆さんには、プロジェクトに取り組む職員と話をさせていただきたいです。職員も議員も町のためにという同じ目的がありますので、双方の良い歯車がかみ合うように、町を良い方向に動かせる上昇気流をつくり出したいです。

最後に町民に向けてメッセージを。

熊田町長 本町は、母村・十津川村との絆を大切にし、祖先に畏敬の念を抱きながら、長い歴史の中で新十津川町を築いてきました。それと同じように今、本町にお住まいの方も親子関係を

大事にし、住んでいる人たちがお互いのことを思いやる町になってほしいと思います。開町120年から始まったあいさつ運動を続けていることもそうですし、安心して住み続けられる町。親子を思い、子は親を思う。そういった絆の温かさや自然なぬくもりがあり、子どもが育ちやすい環境にしていくことが新十津川町らしさと考えます。

笹木議長 議会としては、住民からの意見や要望を聞いて、単に執行側に届けるのではなく、広く住民からの情報を集めて、議員の中で十分に討議を重ね、取捨選択をしていきたいと考えています。私たちも努力しますが、住民の皆さまも気軽にお声を掛けていただき、ご意見などをお聞かせいただければと思います。

ありがとうございました。

